

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

ご来園ありがとうございました(生活発表会)

12月7日(水)~9日(金)に生活発表会を行いました。

生活発表会のコンセプトとして、「保育室をそーっとのぞき見したような」というものを掲げていますので、特別にどこかの会場を借りるでもなく、特別な衣装で着飾るでもなく、園内のホールでいつもの生活通り体操服を着て取り組んでいます。

「幼稚園の発表会なんだから、何かかわいい衣装を着させて踊ったり何かを披露したりするような発表会にしたかどうか」というコメントを頂いたこともありました。幼稚園や保育園の発表会のありかたはまさに園それぞれではありますが、わたしたちは発表会を日々の保育と極端に切り離さないものにしたいと思っています。

「発表会だから見に来てくれる方々からたくさん拍手をもらえるものにしたいね」、「そうなるもある程度、見栄えがよいものもいいし、しっかりした内容にしないとね」、と、いつのまにか誰のための保育なのか、誰の発表会なのかという目的も見失い、子どもそっちのけですべての内容が大人によって決められるということも起きてしまいがちです。

子どもたちもよくわからないながらも繰り返し練習していくとそれなりに上手になっていきます。そして発表会当日も見栄えよく着飾り、よく整ったものであればあるほど、たしかに見ている人にもわかりやすいたくさん拍手をもらえるんだろうと思います。

ただ一方、それが子どもたちにとって「よくわからないけど、とりあえず大人が言う通りにやったらたくさん拍手をもらえた」という経験に留まるのであれば、むしろ悪影響なんじゃないかとも思うわけです。「誰かの言うことを聞いておけばうまくいった」、そんな経験が「自分で考える楽しさ」や「自分らしい表現をしようとする姿勢」を少しずつ削いでしまうんじゃないかとも考えています。

発表会というイベントが近付いているときにも、子どもたちが園生活の中で考えることの楽しさ、自分の好きなことにとことん熱中できる喜びを味わってほしいと思ってい

ます。私たちの考える「生活発表会」はそんな子どもたちのありのままを表現する場です。そしてそんな子どもたちに保護者の方がたくさん拍手を送ってくださる。生活発表会は子どもたちが主人公であり、むしろお客さんである保護者の方々やわたしたちが子どもたちに向けてたくさん拍手を送ることで「自分が自分であることに誇りを持っていいんだよ」と子どもたちにメッセージを送るようなイベントなんだと位置付けています。

生活発表会の内容は本当に日常そのものというか遊んできたそのものなので、特別感のないとてもあっさりしたものだったとは思いますが、たくさん拍手を送って頂いたことが子どもたちへの勇気づけに繋がったと思います。3日間多くのご来場ありがとうございました。

(上記まではSNSに記載した文章を再編し掲載しました。)

なお、現在はクラス完全入れ替わり制で発表をご覧頂いていますが、コロナ禍以前はお子さんのクラスだけでなく、同日に行われる発表全てをご覧になって頂くという形式で発表会を行っていました。今のものより2~3段高く、幅広の観覧席が設置され、ホールがぎっしり埋まるくらいの人数(150名前後)に見つめられるような状況です。

そんな大人でもたじろいってしまうような環境だったので、圧倒されて動けなくなる子も今より少し多かったように思い返しますが、「これまでの子どもたちの成長の過程を感じる」「子どもたちのこれからの育ちの見通しを持つ」という意味ではお子さんとは違う学年も見て頂く意味はそれなりにあったのかなとも思います。(また、カメラで手が埋まっているため拍手をしたくてもできないという悩ましい問題にも毎回直面しています)

どんなやり方を選択しても一長一短ある中で、保育も行事も子どもたちの成長や育ちにとってよい形を選択していけるよう努めていきたいと思っています。